

2026 年 6 月 30 日

学校法人三幸学園
福岡ビューティーアート専門学校
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会
委員長 田之上 竜也

学校関係者評価委員会実施報告

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 長妻 孝知 （コーセー化粧品販売株式会社 九州北支店 支店長）
- ② 山崎 有紀 （GENKI JAPANESE&CULTURE SCHOOL 校長）
- ③ 田之上 竜也 （2023 年度卒業生／GLANZ 代表）
- ④ 岩田 健志 （有限会社エイペックス セールスマネージャー）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026 年 6 月 19 日（会場 福岡ビューティーアート専門学校 実習棟 401 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025 年度 学校法人 三幸学園 福岡ビューティーアート専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 眞光 涼

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 田之上 竜也

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(1) 教育理念・目標

- ・理念、目的、育成人材像など掲げているものの、具体的な指導を実施できていない。また、生徒や保護者が目にする機会が少ない。保護者との連絡アプリを導入し定期的な情報発信を行った。

(2) 学校運営

- ・情報システムについて、昨年度時点では環境を整えることはできた。

(3) 教育活動

- ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)について、短期的な実習は実施されているものの、授業との連動など長期的なカリキュラムの設定・授業進行がなされていないため、就職関連科目を2科目に増やし、スケジュールを細かく設定し指導を行った。

(4) 学修成果

- ・卒業生との関わりが希薄。学校と卒業生とを結ぶアプリの登録を行い、卒業後も連絡を取りやすい環境を整えた。

(5) 学生支援

- ・高校から専門学校へとつなぐ取り組み(職業教育)は体系的には実施できていない。広報関連部署と連携し、昨年度以上に学校見学や高校内説明会へ参加した。

② 学校関係者評価委員会コメント

(1) 教育理念・目標

・入学後に教育理念などを学生へ浸透させる取り組みが重要である。当社でも入社後に同様の機会を設けている。また、その後、定期研修を設け、理念の浸透状況を確認するとともに、方向性や進捗を共有している。

(松田委員：美容科・トータルビューティー科)

(2) 学校運営

・学生管理システムは世界規模で評価の高いシステムを厳選して導入している。一方で、ICT関連のシステムは日進月歩で進歩しており、導入に時間を費やしている間に最新のシステムが開発されることも少なくない。システムを定着させるためには常にシンプルであることが基準。使用の仕方が複雑になるほど浸透しない。新たにシステムを導入する際には、導入後の業務フローを可視化してマニュアル化することが重要である。また、多数のシステムを導入することで資金面の負担も増えるため、この点においてもシンプルさが重要である。

(山崎委員：美容科・トータルビューティー科)

(3) 教育活動

・在学中は、国家試験対策のサポートがとても手厚かった。卒業して感じたことはお客様とのコミュニケーション能力を身につけるためのカリキュラム、SNSに関する知識や活用能力の必要性を強く感じた。このような内容を強化したカリキュラムが充実すると良い。技術スキルはもちろんだが、人間力を高めるための取り組みについても導入が望まれる。(鈴木委員：美容科)

(4) 学修成果

・企業の規模にもよるが、企業側が出身校ごとの卒業生の活躍や状況を把握することは難しい状況にある。卒業生とのコンタクトは学校側から卒業生へ個別に連絡をとって進めることが現実的である。出身校への派遣等は積極的に協力したいと考えており、企業側としても卒業生と在校生との交流の場は設けて欲しい。

(松田委員：美容科・トータルビューティー科)

(5) 学生支援

・日本語学校に通う学生は、卒業後に日本での進学や就業を考えて目指している。そのため、日本の文化に触れる機会を多く設けており、その一環として互いの学校行事に参加することで、美容分野を中心とした専門的な職業を知る機会をつくることができる。(山崎委員：美容科・トータルビューティー科)

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

・保護者との連絡アプリの導入はできたものの、発信頻度が少ない。

・業界ニーズをタイムリーに把握するための企業などへの積極的なアプローチ、ヒアリングが十分に実施できていない。

② 今後の改善方策

- ・出欠状況報告や学費請求等の事務連絡に加え、学校行事案内、年間予定などの発信を定期的実施する。
- ・企業様への学校行事の案内を積極的に行うとともに、企業様訪問については、訪問だけでなく、訪問内容や目的も含めた目標を数値化し、計画的に実施する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・理念、方針の浸透については企業としても課題を感じている。当社では、理念浸透の対象を社員・スタッフと学生の大きく二つに分けて取り組んでいる。社員については、人事評価制度を設け、年に2回の評価面談で自己評価とフィードバックを実施している。その評価シートには企業理念や、期ごとの目標などを明記し、面談の際には必ず確認することで年に数回は理念に触れる機会を設けている。また、社員の名札の裏に理念を記載したシートを入れ、日常的に確認できるように工夫している。学生についても、実習受け入れの時点で短期、長期に関わらず理念などを丁寧に説明する機会を設けている。(山崎委員:美容科・トータルビューティー科)
- ・Notion というシステムを導入し、全社員がスマートフォンから常に情報を確認できる環境を整えている。理念だけでなく、カリキュラムや各種マニュアル、レジ締めなど業務上で必ず確認する仕様にする事で自然に理念が目に入るようにしている。また、このシステムはHPと連携しており、お客様も理念等を閲覧できる仕様となっている。一人ひとりに対して月一回の面談を必須としており、その機会を活用して理念の浸透を行っている。(田之上委員:美容科)
- ・組織運営の中核となる店長に向けた研修については、体系的かつ細やかに実施している。(田之上委員:美容科)

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・情報システムの環境設定は完了したものの、効率的な運用には至っていない。

② 今後の改善方策

- ・導入しているシステムの特徴を整理し、それぞれの特性に応じた情報発信フローの構築と情報発信時のルールの統一化を図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・全社共通のグループウェアをつくり、社員が様々な情報を得ることができるように環境を整備している。また、全社員に iPad やスマートフォンを支給し、決められた曜日に各種連絡が配信される仕組みとしているため、社員が日常的に情報を確認する環境が整っている。このグループウェアを活用してオンライン会議や研修を実施し、経営方針や理念等をオンラインで共有する機会を設定している。情報は随時発信しているが、重要な情報については発信のタイミングを固定するなど運用方法について検討の余地がある。
(長妻委員：美容科・トータルビューティー科)

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・在学中の資格取得に向けたサポート体制の強化が必要である。
- ・授業を担当する全講師に対し、教育理念をはじめとした研修等が十分に実施できていない。

② 今後の改善方策

- ・引き続き新任講師向けの研修は必須で実施する。
- ・対面での受講が難しい講師にも対応できるよう、オンラインやオンデマンドによる研修コンテンツを整備し、受講機会の充実を図る。

③ 特記事項

特になし

③ 学校関係者評価委員会コメント

- ・美容師資格取得のための知識、技術の指導は不可欠であるが、資格取得後の実務に繋がる学びも提供してほしい。特にサロンワーク(現場)に直結する考え方や技術を習得していることは採用時の評価にもつながり、就職後も即戦力として期待できる。(田之上委員:美容科)
- ・社会人として必要なお金に関する知識不足を感じる。給与明細の見方、税金や福利厚生の仕組み、さらには独立開業するための知識があると良い。美容師の中には将来独立開業を目指す者が多く、それらの知識について学べるカリキュラムがあると良い。また、お金に対する不安を抱えている方が多くなっていることを感じており、自分が働く以外の収入源に関する知識などについても学ぶ機会があるとよい。(田之上委員:美容科)

(4)学修成果

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・就職率、資格・検定の取得率が前年度を上回る成果には至っていない。
- ・キャリア指導の年間を通した体系的な指導計画の構築が十分にできていない。

② 今後の改善方策

- ・キャリア関連授業(就職対策)のシラバスを見直し、業界関係者からの直接的な指導の機会を設定する。

- ・就職サポートにおける教職員の役割を明確化し、連携体制を強化する。
- ・業界との連携を一層強化し、企業との関係構築および求人開拓を推進する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・自習室の活用や、授業時間外の学習支援体制（サポートの時間や人員の配置）の充実について検討してはどうか。また、学生が自主的に学ぶ環境づくりも重要である。（長妻委員：美容科・トータルビューティー科）

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・高専接続(職業教育)の機会への積極参加

② 今後の改善方策

- ・広報関連部署と連携し、高校内ガイダンスへの参加、当校への学校見学体験会の積極受け入れ。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・キャリア教育、職業教育は目の前の学びが将来どの場面に繋がるかを理解することが重要。そのためには学内の学びに留まらず、外部連携の機会をより増やしてはどうか。高専接続の観点では、オープンキャンパスの機会と別に郊外で高校生と専門学校とが交わる機会を設定することが有効。
（山崎委員：美容科・トータルビューティー科）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・防災、安全管理に対する体制の整備が十分ではない。

② 今後の改善方策

- ・全教職員を対象とした防災・安全管理に関する研修を実施する。
- ・年間を通じて実施するロングホームルームの機会を活用し、避難経路や避難方法の確認を定期的に行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・避難経路の確認は勤務場所によって異なるため、商業施設や百貨店勤務者であれば共通で実施される避難訓練等へ参加し、自社施設については年に数回実施されている避難訓練等へ必ず参加することを必須としている。自身の安全確認だけでなく、お客様の安全を最優先に行動するための実践的な訓練を、日常的に実施しておく必要がある。（長妻委員：美容科・トータルビューティー科）
- ・安全管理の観点では女性の美容部員に対するストーカー被害への対応も整備している。本社に相談窓口を設け、元警視庁出身のスタッフを配置するなどの取組みを実施している。時代や社会情勢の変化に合わせた安全対策を講じることが重要である。（長妻委員：美容科・トータルビューティー科）

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・入学前後のギャップ(実技科目と座学科目の科目数／コース選択時の事前説明会の充実)が見られる。

② 今後の改善方策

- ・入学後に実施する研修プログラムへ講師の参加を促す。

・早期に業界理解を促進する為の、体験型授業の実施と通常授業との接続性を意識した教育内容の充実を図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短

期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

ボランティアや地域連携については受入先からの依頼を中心に実施しており、学校側から積極的に機会を創出する取組みが十分ではない。

② 今後の改善方策

ボランティア・地域連携活動に関する専門知識を持つ教員の配置を行い、積極的な周知と受入後の運営フローの構築を行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・当社は「SAVE the BLUE」の取り組みの一環で夏季の特定商品の販売本数に応じて、沖縄にサンゴを植樹する取り組みを行っている。社員を現地に招待し実際に植樹を体験できるプログラムも実施。また、キザニアへのブース出展や環境保全の観点で売上に応じた植樹活動などを継続的に行っている。商品を購入するために来店した直接的な顧客への対応はもちろんのこと、企業として地域や社会に貢献するための取り組みに積極的に参加することは、長期的な企業価値の向上にもつながる。また、このような取り組みを学校と連携して行うことで双方にとって有益な機会になるのではないかな。

（長妻委員：トータルビューティー科）

・ヘアドネーション活動として、女性社員が自身の髪を寄付する活動を行っている。同様に美容師養成施設として社会貢献活動に関わることができるのではないかな。（山崎委員：美容科）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

改めて学校関係者評価委員会という場が、教育活動に対して外部の視点や業界の最新動向、現場のニーズを把握することができるとも貴重な機会であると感じる。学校内だけでは把握が難しい情報を教育活動へ反映するため、今後は学校関係者評価委員会だけではなく、学校行事や特別授業、通常授業時においても現場の方々をお呼びする機会を増やし、さらに充実させていきたい。現場を知るだけではなく、学校や学生についても理解を深めていただく機会を多くすることで、双方の理解や連携した取り組みの創出につなげていきたい。今年度は管理者だけではなく、教員も積極的に学外へ出向き、業界との連携強化に努めていきたい。（眞光副校長）

以上